会員数（52・12・1現在）
逗子地区 106名
葉山地区 208名
大船地区 75名
合計 389名

吟道月報

社団法人 日本詩吟学院岳風会認可
神奈川 碩心会 発行

52-12-5
第65号
編集
加藤洌風

私の好きな詩

蒲谷蒼岳（戸塚支部）

昼の休憩時になると、毎日のように隣の会社の片隅より、吟声がかすかに騒音にまじって聞えて来る。何かの詩かわからないが私は詩吟の節まわしが好きでよく耳をすまして聴ました。昭和十三年頃のことです。川崎大師の海岸に近い製鉄所に勤務していました。機会があれば詩吟を習ってみようと思いつつも、自分の生活に追われ、そのうちに戦争の足音が次第に近づいて来ました……。うっとしい時代も過ぎ平和な時代がよみがえり二十八年頃詩吟の好きな友人に誘われて吟の道に入ることが出来ました。最初の頃は他人の吟を聴き勇壮で豪快な吟で気持がスカッーとなり楽しい毎日でした。段々と詩文を覚え自分で味わい詩の心を教本の通解により感じ取り、声高らかに人前で吟じられるようになりました。前書が長くなりましたが、私の好きな詩、「丘灯至夫作」「日本讃歌」を選びました。日本の風光優美と心のやさしさ、祖国愛の詩であると思います。又、和歌「敷島の」は大和民族の心をよく表現し、吟ずる者の心をふるいたたせます。詩吟はご承知のように非常に字句がむずかしく吟ずる本人も解釈がつきかねます。吟

をレらない方は、節まわレはいいが意味がわからないと言う人が多いようです。この「日本讃歌」は、詩文や字句も日常使われている言葉であり、何処で（宴会や旅行等）吟じても一般の方にもよく理解できる詩です、私もこれから先、どのくらい余生があるかわからないが、詩吟を唯一の友として生活を楽しんでいきたいと思っております。

（頑心会常任理事）

第七十三回全国吟道大会について

日　時。五十三年二月十九日（日）九時～六時

場　所。神奈川県民ホール

出吟者。独吟＝加藤秀岳、一般合吟＝一〇名以上

（合吟の出吟者は後日決定して発表します。）

県本部担当。進行＝根岸晃岳（責任者）　加藤秀岳、沼田光岳、千葉翔風、

の当会役員

連絡＝中村幸風

協賛員担金。独吟二、〇〇〇円　合吟一名につき八〇〇円

出吟者優待。出吟者全員に記念品並びに弁当が支給されます。

参　考。県本部出吟割当は左のとおり。

◎**独吟十八名**（奥伝以上で三十八番中二十番は、県本部常任理事以上と詩舞関係者による構成吟「神奈川の鼓動」（四十分）に振りあてる）

◎**合吟コンクール十組**（男女別十名一組で各地区各々二組）

◎**一般合吟**　十五組（十名以上一組で各地区各々三組）

県本部関係の行事予定

一月八日(日)高段者研修会(平塚農業会館)
聴講料一、〇〇〇円
一月二十九日(日)県本部初吟会(津久井浜ケープシャトー)
十時半～三時半、会費一、〇〇〇円
三月十二日(日)高段者審査会(二宮福祉会館)
四月二日(日)県本部青少年吟道大会
(横須賀)
七月二日(日)指導者吟道講座
八月二十七日(日)県本部理事会(横須賀)
九月二十二日～二十五日　七十四回全国大会(富山県高岡)吟行会参加
十月十五日(日)県本部吟道大会(横須賀住友体育館)
十月二十五日　県本部納会(横須賀勤労会館)

会員の動き

★新会員

滝ノ坂支部　藤原　茂子(本誌五十二年十月号掲載の退会々員取消による)
葉山町一色六三一
(電)七五一四三四一

〃　福田　園男(再入会)
葉山町堀内九七五
(電)七五一〇二〇一

新支部の誕生(五十二年十一月)
支部名　風早支部
指導者　根岸晃岳先生
連絡先　石川登代子宅
会員　左記七名
石川登代子(再入会)葉山町堀内六六(電)75～0433

長島　芳子（再入会）　巣山町堀内七五二
（電）七五ー三七三六
六一一

中村　春子　〃
（電）七五ー二八二九
六七四

中村テイ子　〃
（電）七五ー二七二九

黒沢はな子　〃
長柄二六七
（電）七五ー一九六八

巣狩　明子　〃
堀内六五七
（電）七五ー二一四〇

後藤　道子　〃
六〇七
（電）七五ー二五八九

★退会々員

265　建設支部　井沢　勝泉

元町支部　秋田　順一

〃　清水　慶

〃　木村　常男

〃　加茂　温良

大船支部　中内　照子